

会報

第 312 号

岩手県小学校長会	代表 小山田 秀次
事務局	TEL019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9	
盛岡市勤労福祉会館2F	
印刷 富士屋印刷所	



この一年を振り返って

会長 小山田 秀次

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない状況の中、令和三年度も残すところあとわずかとなりました。

各学校では、感染症対策と子どもたちの学びの保障の両立に努めた今年一年の学校経営を振り返りながら、一人一人の子どもたちの成長の姿に、成果や手応えを感じていることと思います。

また、この二年間の様々な教育活動の取組を生かしたり、一人一台端末の有効な活用を推進したりする等の、次年度計画を着々と進めていられたいと思います。

さて、岩手県小学校長会の本年度の活動は、四月に開催した定期総会からスタートし

ました。岩手県教育委員会教育長佐藤博様、岩手県市町村教育委員会協議会副会長佐美淳様をお迎えし、二年ぶりに会員が一堂に会して開催できました。この上ない喜びであります。

その中で私たちは、震災以来、会員の総意として大切にしてきた「明日を拓く 岩手の絆」をしっかり心と心に刻み、先が見えない状況であるからこそ、先達の教えや震災等を通じた学びを継承すること、そして、会員相互の情報共有、連携を大切にし、創意に富んだ取組を推進することを確かめました。

この一つの形として、会誌「北奥」を県・各地区小学校長会や各学校で取り組んでき

た復興教育や被災地支援などを取りまとめ、特集号とし刊行することができました。

六、七月には、東日本大震災特別委員会の事業において、船越小学校、白山小学校、高田小学校を訪問させていただきました。様々な苦しみや苦労があった復興のさなかの家庭で育った子どもたちの中には、直接の被災にはよらない、これまでとは異なるケアを必要とする現状がありました。このような被災地の実情を、全連小の会議で報告し、全連小として、加配の継続等の要望を国にいたしました。

また、コロナ禍における学校の実情や取組については、行財政部・研修部・生徒指導部のそれぞれの視点から調査を実施いたしました。各校においてには学校行事等を安易に中止とせず工夫して実施していること、新型コロナウイルスが原因と考えられる「いじめ」や「不登校」が生じていること、教員の負担軽減の対応としてスクールスタッフの配置による効果が大きく、継続配置の要望が多いこと、などが明らかになりました。

これらにつきましては、本

年度は、七月と十一月の二回、県教育委員会へ要望に訪問し、直接県教育長にお伝えすることができました。

夏になり感染が拡大し、九月には県独自の緊急事態宣言が発せられました。この時期に予定していた、県教育委員会との懇談会と小中生徒指導情報交換会の中止を余儀なくされました。

未だ続くコロナ感染症ですが、令和四年七月には、東北連小岩手大会が開催されました。これまで準備委員会・専門部会において、準備を進めてまいりました。令和の時代となり、元年度の秋田大会は全国大会、二三年度の宮城・福島大会は誌上開催であったことから、実質的には四年ぶりの開催となります。

また、十月開催予定の県校長研究大会釜石大会も花巻大会が誌上開催であったことから四年ぶりとなります。これらの大会テーマ「未来を拓く」子どもを育てるため、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性について、皆さんで集い、究明してまいりましょう。

祝 文部科学大臣表彰

岩手県小学校長会長

小山田秀次 氏

文部科学省による令和三年度教育者表彰が、昨年の十二月十七日(金)、文部科学省東館三階講堂において挙行されました。

本県小学校からは、岩手県小学校長会小山田秀次会長(盛岡市立仁王小学校長)が、「多年にわたり教育者として我が国の学校教育の振興に顕著な功績を挙げられた」として表彰を受けました。

当日は、午後一時十五分から表彰式が挙行され、池田佳隆文部科学副大臣の挨拶の後、表彰状の授与及び記念品の贈呈がありました。

午後三時三十分からは、皇居に参内し、「豊明殿」において、天皇皇后両陛下に拝謁してお言葉を賜りました。

小山田会長は、この度の受賞について「この表彰は、我个人にとりいうものではなく、岩手県の小学校教育に関わる全ての皆様に対する表彰であると思っております。今後も、子どもたちの健やかな成長のため、会員の皆様とともに、取り組んでいくことができれば幸いです。」と話しています。

令和三年度 各部の活動報告

総務部

総務部は、本会全般に関わる企画・立案及び庶務に関する活動、東日本大震災対策活動を行ってきた。

一 総務部担当活動

① 理事会・評議員会

○ 第一回理事会・評議員会 (四月二十三日)

・本年度の組織構成等の確認
(全連小・東北連小役員、理事の専門部所属確認、各部及び専門委員会の構成と活動計画の確認)

○ 第二回理事会 (六月十一日)

・第五十九回総会の反省
・全連小、東北連小理事報告
・東北連小福島大会、全連小石川大会について

※東北連小岩手大会第一回準備委員会

○ 第三回理事会 (九月十七日)

・全連小関係報告、東北連小理事報告、被災地訪問報告
・第五十八回岩手県小中学校長研究大会釜石大会について

※東北連小岩手大会第二回準備委員会

○ 第四回理事会・第二回評議員会 (十一月八日)

・全連小・東北連小対策・教育課程調査研究報告

・令和三年度岩手県教育委員会への要望事項について

・第五十八回岩手県小中学校長研究大会釜石大会について

・県小学校長会会費について
※東北連小岩手大会第三回準備委員会

○ 第五回理事会・第三回評議員会 (二月二十二日)

・全連小理事会、東北連小理事報告
・東京電力福島第一原子力発電所・被災校等視察報告

・令和三年度東日本大震災対策収入・支出決算(中間)報告

・令和四年度行事予定

※東北連小岩手大会第四回準備委員会

② 総務部担当理事・地区事務局長合同会議

○ 第一回総務部担当理事・地区事務局長合同会議 (四月二十三日)

・本年度の組織構成

・県大会、全連小大会、東北連小大会等について

○ 第二回総務部担当理事・地区事務局長合同会議 (一月二十四日)

・本会会務、中間期決算報告

・令和四年度行事予定

・令和四年度総会開催関係依頼事項の伝達

・各地区校長会の活動状況についての交流

③ 常任理事会

今年度の活動方針と計画に基づき、年間十二回開催し、総務・行財政・研修・広報編集・生徒指導の各部の活動状況を共有してきた。

二 東日本大震災対策活動

① 東日本大震災対策特別委員会の開催

○ 第一回 (六月十一日)

・令和二年度東日本大震災対策活動について報告
・令和三年度東日本大震災対策特別委員会の計画

・被災地区校長会訪問の計画

・被災地区小学校の現状と課題について情報共有

○ 第二回 (十一月八日)

・盛岡市立仙北小学校遠藤耕生校長による復興・防災に関する講演会

○ 第三回 (二月二十二日)

・各地区の状況と今後の支援

・被災地区校長会訪問の計画

○ 被災地区小学校の状況と横軸姉妹校連携による支援活動の状況について情報共有

状況の説明
(総務部長 紺野 好弘)

行財政部

教育諸条件に関する実態把握と要望事項について委員の意見を集約し、その調査結果をもとに、県中学校長会と共同で県教育委員会に要望活動を行った。

一 行財政関係調査

① 県調査

「校長の給与等の実態」「教職員の病休者と補充状況」「学校経営における要望」「教材予算に関すること」「その他」について実施。

② 全連小調査

「小学校教員の採用及び育成」「働き方・処遇改善」等についての調査へ回答。

二 要望(提言)活動

① 要望書の提出

会員からの調査結果をもとに「本県義務教育の充実振興について」をまとめ、県教育委員会へ提出。(十一月十八日) なお、今年度から前年度の要望項目について、次年度予算への具現化を図る目的から七月二十七日にも県教育委員会を訪問し要望活動を行った。

② 本県義務教育の充実に関する懇親会

当初、八月下旬に開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となり、資料提供を受けた。

三 全連小対策委員会

「学校における働き方改革の進捗状況」「GIGAスクール構想の実現に向けたICT環境整備の進捗状況」をテーマに東京都において開催(十月十八日)

四 東北連小対策委員会

「今年度の対策活動や要望活動の取組状況」「震災復興及び防災に係る人的配置、施設・設備、教材等の整備状況」について情報交流。また、「学校における教員の働き方改革への取組状況」「退職者が急増する状況を踏まえた対応」についての意見交流。(十月二十一日)

五 活動報告書

令和三年度行財政対策委員会活動報告書を作成。

六 諸会議の開催

行財政対策委員会(五回)、行財政担当理事・地区行財政担当者・行財政対策委員会合同会議(二回)を開催。

(行財政部長 佐藤 淳)

研修部

研修部は、学校経営の充実に寄与するため、教育課題に対する調査研究並びに各研究大会等に関する次のような活動を行う

てきた。

一 諸会議の開催

- ・ 地区研修担当者会議二回
- ・ 調査研究特別委員会二回
- ・ 調査研究委員会 九回

二 調査研究活動

① 岩手県小学校長会関係

「自ら未来を拓き」とともに生きる豊かな社会を創る。日本人の育成を目指す小学校教育の推進。郷土を愛し、主体的・協働的に学び、夢と未来を拓く子どもを育てる学校経営の推進」を新しい研究テーマとして調査研究活動を行った。調査は、「ポストコロナを見据えた『資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメント』の実施」について、「新型コロナウイルス感染症対応の実態」と「資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメント」に重点を置いてアンケートを作成して実施した。本年度は、調査結果のまとめを行い、来年度は、その調査分析に分析・考察を加え、県小・中学校長研究大会釜石大会で研究発表する予定である。

② 全国連合小学校長会関係

全連小の計画により、抽出口に依頼し、調査を実施した。

三 研究大会

- ① 第六十一回東北連合小学校長会研究協議会福島大会は、七月一、二日に福島市で開催される

予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大会要項の発行と発表DVDを活用した紙面開催となった。本県からは、一関地区校長会が

「評価・改善」分科会、釜石地区校長会が「学校安全」分科会で発表を行った。二年連続で校長が一同に会して、意見交換はできなかったが、発表DVDと「ふくしまの絆」を閲覧することを通して、成果を共有することができた。

② 第七十三回全国連合小学校長会研究協議会石川大会は、十月十四日、十五日に金沢市で開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、誌上開催となった。

(研修部長 後藤 敏信)

広報・編集部

教育情報の提供並びに会報・会誌の編集、発行に関する活動を行ってきた。

一 「会報」の発行

- ① 第三百十号
「県小学校長会総会特集」「地区校長会研究交流(一関)」「新たな教育課題への対応(和賀)」 「役員紹介」他
- ② 第三百一十号
「東北連小福島大会報告(紙面開催のため本県発表内容を

紹介した。(第二分科会・第七分科会)」「地区校長会研究交流(花巻)」「新たな教育課題への対応(宮古・気仙)」他

- ③ 第三百十二号
「各部活動報告」「地区校長会研究交流(遠野)」「新たな教育課題への対応(盛岡)」「来年度関係事業等」他

二 会誌「特集号」の発行

東日本大震災発災から十一年が経過したことから、これまで本県の各地区及び岩手県小学校長会が取り組んできた復興教育や被災地支援などの取組をまとめ、その成果を記録として残した。

三 全連小「教育研究シリーズ第五十九集」購読の推奨

四 全連小「全国特色ある研究校便覧」購読の推進、執筆の依頼

- ・ 御所小【体育科】
- ・ 平泉小【総合的な学習「平泉学」、社会科、生活科等】
- ・ 世田米小【教科の新設「地域創造学」】
- ・ 双葉小【社会科、生活科】
- ・ 田老第一小【算数科】
- ・ 軽米小【ICT教育】

五 「小学校時報」への執筆

- ① 四月号
佐久間充校長(岩谷堂小)
- ② 六月号
及川輝美校長(大東小)

③ 九月号

吉田久美子校長(好摩小)

④ 十二月号

立柳容子校長(一戸小)

⑤ 二月号

遠藤耕生校長(仙北小)

六 諸会議の開催

広報・編集専門委員会五回、担当理事・地区広報担当者・専門委員合同会議を二回開催した。

(広報・編集部長 吉田久美子)

生徒指導部

生徒指導の諸問題にかかる調査を実施すると共に、児童の健全育成を図るために、各地区小学校長会や県中学校長会と連携し、次の活動を行った。

一 諸会議の開催

- ① 生徒指導担当理事・専門委員・地区生徒指導担当者合同会議
- 第一回 四月二十三日(金)
- ・ 年間活動計画の作成
- 第二回 九月六日(月)午前
- ・ 調査結果の分析・考察
- ・ 各地区状況の情報交換
- ・ 各状況の状況の情報交換

② 調査結果の分析・考察

- ・ 調査結果の分析・考察
- ・ 各地区状況の情報交換
- ・ 各状況の状況の情報交換

③ 新型コロナウイルス感染症拡大により中止。中間報告書等の資料を配付し、意見等集約。

- ② 小・中生徒指導情報交換会
九月六日(月)午後
- ・ 話題提供及び情報交換

・ 県教育委員会学校教育室生徒指導課長による講話

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止。講師生徒指導課長提供の生徒指導関係資料を配付。

- ③ 生徒指導専門委員会(年五回)
- (専門委員五名を盛岡市小学校長会に委嘱)
- ・ 調査内容の決定
- ・ 調査結果の分析と考察
- ・ 中間報告書の検討
- ・ 報告書の校正と来年度調査項目の検討
- ・ 活動の反省

二 調査研究活動

- ① 研究主題
「生徒指導の諸問題にかかる調査研究」
- ② 調査方法
・ 県内全小学校長を対象にアンケート調査を実施
- ③ 調査内容
調査1「はじめ」
- 調査2「不登校児童」
- 調査3「少年非行」
- 調査4「学級経営上の諸問題」
- 調査5「情報化」
- 調査6「児童虐待」
- 調査7「震災の影響」
- 調査8「新型コロナウイルスの影響」
- ④ 調査のまとめ
・ 調査研究内容を報告書にまとめ、年度末に配付。

(生徒指導部長 和田 英)

新たな教育課題への対応

令和時代のスタンダード ～ICT教育の推進～

盛岡地区

と機器整備の方針を示した。

六月から、市内小中学校にタブレット（児童・生徒全員分、授業を行う教員分）が導入されたが、初期設定等は学校実施となり、本校では夏季休業中に全教員で行った。

九月に入り、中学校普通教室全てと小学校五・六年生教室に、大型提示装置が書画カメラと共に整備された。

二 インターネット環境

夏季休業中の初期設定段階で、教室内のタブレットを同時に起動するとフリーズ等する現象が見られ、各教室一三台程度の割合で作業を進める必要に迫られた。通信速度等については、かなり改善されたが、授業での使用台数を減らしたり、起動する時間をずらしたりしながら活用している学校も多い。

三 教科学習での活用

① ロイロノートスクールの活用

市教委でも活用を推進しているが、本校ではロイロノートスクール上で資料を配信

し、児童がその資料カードをつなげて考察する等の実践を行った。児童が機器を操作することに難しさがある場合は、教師機のみを操作し、ロイロノートスクール上で児童のノートを撮影し、カードとしてモニターに提示して共有したり、それを使って児童に説明させたりする例もある。

また、学習発表会で調査内容を発表する際に、タブレットを活用し、ロイロノートスクールのカードをつなげて手軽に発表資料を作成・提示した学年があった。

② 情報検索等での活用
従来もPC室を使用して行われていた学習方法であるが、教室を移動しなくても検索ができるのはICTを活用する機会の増加につながっている。また、教科書会社のサイトで練習問題等に取り組みだりNHK for Schoolを活用したりする学習が増えている。

③ ドリル学習での活用
市教委から、エドテック事業補助金を活用した「すららドリル」が紹介され、全児童

生徒分と教員分分のID・パスワードが無償で今年度いっぱい使用できる環境にある。

本校では、担任の裁量で自由に活用している。四月当初に紙版のドリルを購入していることもあり、あくまでも補完的な役割での活用にとどまっているが、AIDリルを活用した個別最適化の学習支援については、これからの検討課題だと考えている。

四 家庭での活用の可能性

当地区ではタブレットの持ち帰りは禁止であり、学校での活用にとどまっている。他地区・他県では既に持ち帰って家庭学習に活用しているところが増えているという情報もあり、家庭での効果的活用について考えていきたい。

五 働き方改革の視点から業務負担軽減に向けた活用

教室で、タブレットを使用していると、あちこちから「先生、動きません」等の声が聞こえる様子をよく見かけると、児童の方が先に覚えると言いながらも、やはり指導者

がタブレットを使用しなければ活用が促進できない。また、業務負担軽減の視点から、いくつか試行しているが、軌道に乗ったものはまだ一つもない。

- ① 児童用・保護者用アンケートの電子化
- ② 朝の遅刻・欠席連絡情報の電子化及び職員間の共有
- ③ 会議資料の電子化
- ④ 研究会グループ協議を電子化してアプリ上で共有

教員が便利だと感じなければ、なかなか浸透しないが、電子化は業務負担軽減への強力なツールだと考えている。

六 終わりに

ICT教育の推進は喫緊の課題であるが、同時に万能ではない。まずは使ってみて、その良さを知ったうえで従来の方法とどのように共存していくか、より良い教育の在り方を探りながら、試行錯誤をまだまだ続けていきたい。

（盛岡市立中野小学校

吉田 竜二郎）

一 機器整備の経緯

文部科学省は、一人一台端末環境を「令和時代のスタンダード」と掲げ、当地区では六月以降、端末が順次整備されたが、各校の取組は現在でも、足並みがそろっているとは言いがたい。ここでは、本校の取組を通して、ICT教育の推進に向け試行錯誤する学校の一部をお伝えしたい。

二 機器整備の経緯

四月に市教委は学校教育課内に「学校情報室」を新設し、ギガスクール構想の推進

地区校長会研究交流

創意に満ちた学校経営に努め、生き生きと学び、 将来への夢を持つ児童生徒の育成を目指して

遠野地区校長会

一 はじめに

遠野市校長会は、遠野市内の小中学校で組織されています。小学校十一校、中学校三校、合わせて十四校です。

当地区の校長会は、小学校と中学校の連携を密にしながら、今日的課題や教育行政、学校運営等に関する内容をテーマにした学校経営の充実に資する研修を年七回程度行っています。

また、昨年度に引き続きコロナ禍の状況ではあります。が、全体研修会の回数は減らすことなく（午前からの研修は、午後から実施へ）、コロナ対応に係る行事等の見直しなど校長間の意見交流の時間を確保しながら、研修内容の充実に努めています。

二 研修計画の概要

本年度の遠野市校長会の研修は、学校経営の充実に資する研修として、次のような内容

容で全体並びに部会で推進してきました。

①危機管理等学校経営上必要な課題に対応したレポート（話題提供）による研究協議

②日々の経営の中での職場づくりや職員指導についての事例をもとにした研修

③東北、全国校長研究大会での研修（出席者の伝講会）※紙面発表の為、実施せず

④小学校部会、中学校部会での主題研究（令和四年度東北連小岩手大会、県釜石大会の発表に向けた取組）

⑤その他必要とされる研修（コミュニティ・スクール等）

なお、研修計画を立てるにあたっては、次のような確認事項があります。

・学校が会場の際には、学校経営の具体を学び合う目的

・他にも、学校経営説明の時間を設けること

・研修の中で、一〜二回は講演会（今日的課題等）を開催すること

・隔年で管外視察研修を行うこと（県研究大会のない年度）

また、市の校長会議後にも、情報交換会や中学校区連絡会を随時開催する等、機会ある毎に顔を合わせ、研修に関する取組の共通理解を図っています。

三 小学校部会の主題研究

小学校部会では、研究を推進する研究部員を中心に全員で実践研究を進めています。

また、市の校長会議後にも、情報交換会や中学校区連絡会を随時開催する等、機会ある毎に顔を合わせ、研修に関する取組の共通理解を図っています。

特に本年度は、研究テーマの共通理解を図り、互いの課題や問題点の解決につながる全体協議の場が必要である

と考へ、昨年度よりも研修会の回数を増やし、年三回行いました。どの研修会においても、共通取組の認識を深め、

各校の創意工夫ある取組からの気付きや学びがあり、大変有意義なものとなりました。

来年度の発表に向けて、研究自体はまだ道半ばですが、

その概要について紹介します。

教育課題領域

【社会との連携・協働】

◆研究主題

「小・中間のよりよい連携と円滑な接続の推進における校長の在り方」九年間の連続性を重視した遠野スタイルの小・中連携の実践を通して」

◆研究のねらい

小・中間で連携し九年間の連続性を重視したよりよい連携と円滑な接続を組織的に推進する上での校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

◆研究の内容と方法

①意識調査（令和二年度）
ア事前アンケート実施
イ課題点の明確化
ウ校長の果たすべき役割と指導性「一〇の視点」設定

②小中連携実践事例収集
（令和三・四年度）
ア観点一 中学校区学力向上取組

イ観点二 小中接続取組
ウ観点三 小中連携取組
エ観点四 「ふるさと教育」

における連携取組

③校長の役割・指導性の検討
（令和三年度）
ア事後アンケート実施

イ変容分析
ウ校長の果たすべき役割と指導性「一〇の視点」考察

④研究の成果と課題 （令和四年度）

ア研究成果の共有と課題点の明確化
イ研究発表による提言

四 終わりに

今年度は、コロナ禍の影響を受け、やむなく中止となった全体研修がありました。そのような中、主題研究については、小学校部会研修会を計三回（各校における実践計画、中間報告、実践報告）実施することができました。

危機感を共有する中、主題研究に全体で取り組むことで組織の一体感が強く感じられるものとなりました。この一体感こそが、互いの創意に満ちた学校経営を支え、ひいては生き生きと学び、将来への夢を持つ児童生徒の育成へとつながるものと思います。

今後も地域及び市民の信頼と期待に応えられる組織であり続けるために、会員相互が力を合わせて取り組んでいきたいと思います。

（遠野市立土淵小学校
佐々木 哲也）

令和 4 年度大会等のお知らせ

令和 4 年度 第60回岩手県小学校長会定期総会

- 1 期 日 令和 4 年 4 月 22 日 (金) 午後
- 2 会 場 盛岡市都南文化会館 (キャラホール)
- 3 主な内容 感謝状贈呈 行政説明 被災地状況報告 総会 第 1 回理事会、評議員会
(予定) 各部地区担当理事・地区事務局長・地区担当者・専門委員合同会議・東北連小実行委員会
- 4 参加体制 全会員の参加体制で行う予定です。

第62回東北連合小学校長会研究協議会岩手大会

- 1 大会主題
「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
- 2 副主題
「郷土を愛し主体的・協働的に学び 夢と未来を拓く子どもを育てる学校経営の推進」
- 3 期 日 令和 4 年 7 月 7 日 (木) ~ 8 日 (金)
- 4 会 場 【全体会】 盛岡市民文化ホール (大ホール)
【分科会】 メトロポリタン盛岡ニューウイング・メトロポリタン盛岡本館・アートホテル盛岡
- 5 大会日程

【前 日】 7 月 6 日 (水)

14:00	14:30	16:30	18:00	20:00
受付	東北連小 理事会		レセプション	

【1 日目】 7 月 7 日 (木)

8:50	12:30	12:55	13:20	14:00	14:20	16:15	16:30	16:50	17:30
理事等研修視察	受付	プレゼン テーション	開会行事 全体会	休憩	シンポジウム	閉会 行事	休憩	分科会 打合せ	

【2 日目】 7 月 8 日 (金)

8:30	9:00	12:00
受付	分科会 (研究協議)	

6 シンポジウム

【テーマ】 「震災からの復興～子どもたちに夢と希望を～」

【シンポジスト】 廣 嶼 文 樹氏 (株式会社テレビ岩手報道制作局制作部副部長兼コンテンツ戦略室副部長)
菊 池 のどか氏 (株式会社 8 kurasu 防災教育担当)
藤 岡 宏 章氏 (岩手県立図書館長)

【コーディネーター】 吉 田 久美子 (岩手県小学校長会常任理事)

7 分科会

分科会名		岩手県 発表地区	会 場	分科会名		岩手県 発表地区	会 場
1	経営・組織・運営	花 巻	メトロポリタン 盛岡ニューウ イング	6	研究・研修	盛 岡	メトロポリタン 盛岡本館
2	評価・改善	胆 江		7	学校安全	気 仙	
3	知性・創造性	一 関		8	危機対応	岩 手	アートホテル 盛岡
4	豊かな人間性	宮 古		9	自立と社会性	二 戸	
5	健やかな体	久 慈		10	社会との連携・協働	遠 野	

- 8 参加体制 現時点で岩手県小学校長会員は全員参加体制で行う予定です。

第58回岩手県小・中学校長研究大会釜石大会

1 大会主題

「未来を拓き豊かな社会を創造する子どもを育てる岩手の教育」

2 研究主題

小学校 「郷土を愛し 主体的・協働的に学び 夢と未来を拓く子どもを育てる学校経営の推進」

中学校 「新たな時代を切り拓き よりよい社会を形成していく日本人を育てる岩手の中学校教育」

3 期 日 令和4年10月7日(金)

4 会 場 【全体会】 釜石市民会館(TETTO) 【分科会】 釜石市内ホテル

5 大会日程

9:45 10:15 10:50 11:50 13:15 15:35 15:45

受付	開会 行事	全体研究発表 (小・中研究発表)	昼食 移動	分科会研究協議 (小・中別分科会)	閉会 行事 (分科会毎)
----	----------	---------------------	----------	----------------------	--------------------

6 分科会

分科会	視 点	地区	分科会	視 点	地区
1 経営、組織・運営	学校課題を明確にした学校経営の推進	一関	6 研究・研修	実践的な指導力を高める校内研修体制の推進	二戸
	教職員の参画意識を高揚する活力ある組織・運営	花巻		将来への夢や希望、参画意識を持たせる研修の推進と職員の育成	盛岡
2 評価・改善	教育の質の向上を目指した学校評価・運営の構築	岩手	7 学校安全	自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育の推進	釜石
	学校の活力を高める学校評価・教職員評価	胆江		地域等との連携・協力を図った意図的・計画的な取組の推進	気仙
3 知性・創造性	知性・創造性を育む教育課程の編成	盛岡	8 危機対応	自然災害の特性を理解し、自ら判断し行動できる防災教育の推進	宮古
	知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善	一関		学校単独での取組や他校種、地域との連携した防災対応の推進	岩手
4 豊かな人間性	他と共に、よりよく生きるための人権感覚の育成	和賀	9 自立と社会性	自立と社会参加を図る特別支援教育の推進	久慈
	豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善	宮古		未来への夢や志を育むキャリア教育の推進	二戸
5 健やかな体	心身の健やかな成長を目指す教育課程の編成・実施・評価・改善(健康教育)	紫波	10 社会との連携・協働	家庭・地域等と連携し、地域に貢献する学校づくりの推進	胆江
	体験を通して実践的な態度を育む教育課程の編成・実施・評価・改善(環境教育)	久慈		幼保・小・中等との連携と円滑な接続のための組織的な取組の推進	遠野

7 参加体制 全会員の参加体制で行う予定です。

第74回全国連合小学校長会研究協議会島根大会

1 大会主題

「自ら未来を拓き とともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

2 副主題

「ふるさとを学びの原点に 主体的・協働的に学び合い 豊かな未来社会を創る子どもの育成」

3 期 日 令和4年10月13日(木)～14日(金)

4 会 場 【全体会】 島根県民会館

【分科会】 松江市内公共施設及びホテル(13会場)

5 大会日程

【1日目】 開会式 文部科学省講話 全体会 分科会

【2日目】 全体会 シンポジウム 閉会式

6 参加体制

本県の発表は、「第4分科会 知性・創造性：盛岡地区」、「第11分科会 社会形成能力：紫波地区」が割り当てになっており、この発表者を含め、本県の参加割当数は15名になっています。

事務局日誌抄

- 9月27日 全連小教育課題委員会（リモート）和田部長出席
- 10月18日 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会（東京・KKRホテル東京）佐藤部長、後藤部長出席
- 21日 東北連小第2回教育課程委員会（リモート）後藤部長出席
東北連小第1回対策委員会（リモート）佐藤部長出席
- 25日 全連小教育課題委員会（東京・全連小事務局）和田部長出席
- 28日 東北連小第2回理事会（リモート）小山田会長、遠藤副会長出席
- 11月8日 第4回理事会・第2回評議員会合同会議、第2回東日本大震災対策特別委員会、東北連小岩手大会第3回準備委員会（サンセール盛岡）
- 10日 全連小第239回理事会（金沢市・ホテル金沢）小山田会長、遠藤副会長出席
- 17日 東北連小岩手大会準備委員会第3回専門部会（盛岡市立東松園小学校）
- 18日 岩手県教育委員会へ要望書提出
全連小監事会（東京・全連小事務局）遠藤副会長出席
- 22日 全連小教育課題委員会（東京・全連小事務局）和田部長出席
- 12月10日 東北連小岩手大会準備委員会第4回専門部会（サンセール盛岡）
- 14～15日 東京電力福島第一原発等視察研修（福島県内）遠藤副会長・紺野部長出席
- 1月14日 東北連小岩手大会準備委員会第5回専門部会（サンセール盛岡）
- 21日 第2回広報・編集部担当理事・地区担当者・専門委員合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
- 24日 第2回総務部担当理事・地区事務局長合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
- 31日 第2回研修部担当理事・地区研修担当者、第2回調査研究特別委員会、第8回調査研究委員会合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
- 2月4日 東北連小第3回理事会・研修会（リモート）小山田会長、遠藤副会長出席
東北連小引継ぎ会（リモート）常任理事・事務局員出席
- 7日 第2回行政部担当理事・地区行政担当者・対策委員合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
- 18日 全連小第240回理事会（リモート）小山田会長、遠藤副会長、紺野部長出席
- 22日 第5回理事会・第3回評議員会合同会議、第3回東日本大震災対策特別委員会、東北連小岩手大会第4回準備委員会（盛岡市勤労福祉会館）
- 3月2日 岩手県小学校長会会計監査（盛岡市勤労福祉会館）

編集後記

今年度最終号となる会報を盛岡市立中野小学校 吉田竜二郎校長先生、遠野市立土淵小学校 佐々木哲也校長先生からの貴重な寄稿をいただき発刊できました。ことに心よりお礼を申し上げます。

さて、今回の会報を作成するにあたって今年度の歩みを振り返った時、新型コロナウイルス感染症防止にかかわる対応、一人一台タブレット配備にかかわるICT教育の推進など、様々な対応を求められたことに改めて気付かされます。

そうした状況の中、私たち校長は、判断の難しさや重要性を実感する機会が多かったように思います。そしてこのことは、校長会の役割の大切さと校長間のつながりのありがたさを再認識する機会にもなりました。

また、巻頭言で、小山田会長が述べられた「先が見えない状況であるからこそ、先達の教えや震災等を通じた学びを継承すること、そして、会員相互の情報共有、連携を大切に、創意に富んだ取組を推進すること」の重要性を確かめ合いたいと思います。

来年度は、東北連合小学校長会研究協議会岩手大会、県中学校長研究大会釜石大会が開催されます。新年度に向けて連携を大事に、各校の学校経営の充実に向け努力したいと思います。

（担当 佐藤 淳）